（別紙３）

公表　　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス　もしもし			
○保護者評価実施期間	2026年　3月　10日	～	2026年　3月　25日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	18名	（回答者数）	17名
○従業者評価実施期間	2026年　3月　10日	～	2026年　3月　25日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8名	（回答者数）	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所を楽しいと思って通所をしてもらえることが強み。また、曜日ごとにプログラムを変更することで、どの曜日に通所しても楽しみながら学ぶことができる。	子どもたちが飽きずに参加できるプログラム作りを意識しております。 子どもたち、保護者様のご相談に乗り、基本利用曜日の変更を可能な限り柔軟に対応している。	・プログラム担当者を定期的に入れ替えることでマンネリ化や固定概念の払拭を図る。 ・個別療育についての研修などを通して、スキルアップを図る。
2	他事業所との交流、老人施設との交流の機会を作り、児童にとって刺激のある機会を提供できている。	交流の機会を作ることで、様々なことから刺激を受け成長の手助けをしている。 外部との交流をとることで療育の透明化を図れるように意識をしている。	単発の交流ではなく、定期的な交流をすることで更なる療育の透明化をしていけるよう努める。
3	学習に使う課題はオリジナリティを活かしたものを多く用意している。課題は年齢や学習レベルに合わせて、10段階に分けている。段階ごとに箱に入れて管理・提供している。 課題の多くは既製品ではなく、手作りである。	毎月課題箱の入れ替えを行い、マンネリ化を防ぐと共に学びを刺激するものを提供している。 「ただ学習する」のではなく、「楽しみながら学ぶ」を意識した課題作りをしている。	課題を考える時間、作る時間の確保を提供するため、課題作りの時間を提供する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の促進、他家族との交流の機会を作っているが十分ではないとの意見が多い。	運動会やクリスマス会で、他家族が交流できる場面を提供しているが、話をする雰囲気を作れていないと考える。挨拶程度のコミュニケーションで終わってしまうのは、会話をしたということにはならない。	定期的な保護者会を開催を実施し、顔合わせではなく、会話をメインとした行事を考える。
2	非常災害の発生に備えた、定期的な避難、救出その他必要な訓練について行っているが、周知が足りていない。	訓練の実施について、ブログや連絡帳など保護者へ伝える手段が限られている。	昨年に比べると周知ができるようになってきているが、十分ではないため更なる周知徹底を実施していく。また、訓練に参加できる児童を増やしていくことも配慮していく。
3	同年代の児童との地域の外部交流が現状ほとんどとれていない。	・児童の内情を考え、近隣の施設との交流が難しいと考えていること。 ・老人施設とは交流をさせていただいたが、同年代の児童との交流には踏み出せていない現状がある。	交流の仕方を考えることは常に行なっていくが、通所している児童の気持ちを汲む必要がある。交流の仕方や場所など、通所児童が不快に感じないように配慮する。